

あけましておめでとうございます

～新しい年を迎えました。幸せな暮らしは平和な社会があつてこそ。

子どもたちの未来のために平和な社会を共に築いていきましょう～

12月27日(火)は年の暮れの「餅つき」を行いました。お餅つきにはお母さん、お父さんにも手伝っていただき、一緒にお餅をついたり、丸めたりしてもらおうと計画していましたが、直前にコロナ陽性者が子どもも大人も次々に出て来たので、残念でしたが、園内でこじんまりと行いました。

子どもたちはつきたてのお餅を“おいし～い!”とお腹いっぱい食べました。

また、鏡餅も作り、ののかぜ保育園の子どもたちをはじめ、みんなに幸せが訪れるようにと玄関や各クラスに飾りました。

子どもたちが健やかに大きくなりますように! 大人たちも健康で過ごせますように! そして、コロナが少しでも早く終息しますように! と願っています。

今年も、父母と職員で力を合わせながら子どもたちの育ちを支えて行きましょう。

本年もどうぞよろしくお願いたします。



昨年の12月、政府は安保政策を大転換し、敵基地攻撃能力を明記しました。国会での議論もせずです。歴代政権が戦後一貫して否定してきた反撃能力の保有をすることと、防衛関連の予算を倍増させることを明記したのです。

中国や北朝鮮のミサイル攻撃に対抗すると首相は言っていますが、周辺諸国との緊張はさらに高まり、軍備競争がどんどんエスカレートすることは目に見えています。反撃能力を保持すれば、軍拡競争はどんどん加速し、誤認識による偶発戦争だって起こりうる可能性が出てきます。

また、防衛関連予算に増額の問題です。その財源を所得税などの増税も財源にするという方針を出しました。ただでさえ、物価や光熱費が高騰し、社会保障費負担も増える一方で、賃金はなかなか上がらず、国民の暮らしは苦しくなるばかりです。

また、防衛費は「増税」や増税と決める一方で、少子化対策では財源は放置されています。「子ども予算は増税」と当初言っていた首相ですがこのことに関しては全然改善が見えてきません。というか放置です。

現憲法には、国民主権、平和主義、基本的人権の三大原則が貫かれています。以前にも触れたことがあります。作家坂口安吾は、国際紛争を解決する手段としての戦争と陸海空その他の戦力の放棄した九条を高く評価し、「私は敗戦後の日本に、二つの優秀なことがあったと思う。一つは農地の解放で、一つは戦争放棄という新憲法の一項目だ。」「ちっぽけな自衛権など、全然無用の長物だ。与えられた戦争放棄を意識的に活用するのが、他のいかなる方法よりも利口だ」(文芸春秋「安吾巷談」)

東西冷戦に突入し、核戦争の恐怖が覆っていた時代にもかかわらず、軍備増強より九条の精神を生かす方が現実的だと喝破しました。



確かに日本を取り巻く安全保障環境は厳しさを増していますが、防衛力増強が打開策なのか国民的な議論が必要ではないかと思えます。そして何より将来を担う子どもたちが大切にされ、希望を持って生きていける社会を作っていくことが我々大人たちの役割だと考えます。